

名 蔵 湾 護 水 面 調 査

渡 辺 利 明・勝 俣 亜 生

本調査は、名蔵湾藻場保護水面管理事業の一環として実施したものであり、「昭和55年度名蔵湾保護水面調査報告（藻場）」に詳細は報告したので、ここでは要約を示す。

- (1) 温帯に分布する海草と種類の異なる当海域での海草の生長を知るため、1980年5～6月（初夏）と1981年1～2月（冬）の2回リュウキュウアマモとリュウキュウスガモの葉の生長量調査を行なった。リュウキュウアマモは初夏に21.3～25.4 (mm/週)、冬に7.3～10.6、リュウキュウスガモは初夏に15.2～19.7、冬に6.0～8.8 と、両種とも初夏に生長が良かった。またリュウキュウアマモの生長様式も観察した。
- (2) 罾網を設置して大型魚類相を調べた。主要な漁獲物は、アオリイカ、ゴマアイゴ、ホシサヨリなどであった。
- (3) 幼魚類の藻場での出現状況を明らかにするため、1980年4月より1981年3月まで毎月刺網漁獲試験を実施した。その結果、アイゴ類、フェフキダイ類、ブダイ類、ヒメジ類、ヒメフェダイ類等の幼魚が藻場に生息することが明らかになった。また、それぞれの種についての出現状況も把握できた。
- (4) 1980年7月9日に平均尾叉長9.4 cmのミナミクロダイを7,018尾標識放流した。また同年9月25日には平均尾叉長8.6 cmのハマフェフキを3,050尾標識放流した。
- (5) 海草藻場の葉上動物について、1979年7月より1980年6月まで、ほぼ2ヶ月毎に調査した。葉上動物では、端脚類・多毛類が周年に亘って優占的であった。
- (6) 現在までに設置した3種の魚礁のうちヒューム管魚礁・フィルム魚礁の埋没、沈下、流失が著しく蛸集効果の低下がみられた。
- (7) 保護水面内外の3地点で、水温・塩分・pH・DO・COD・NH₄-N・NO₂-N・NO₃-N・PO₄-Pの各項目について測定した。